




(ちえるちゃんと復習しよう！)

- ✓ 「積立金額が最低保証されているからリスクはほとんどない、でも、株式で運用しているみたいだからきつとうまくいえば利回りがいいに違いない」という投資型年金のイメージは幻想
- ✓ 人は案外イメージに支配されて行動している
- ✓ 現実の金融商品ではリスクとリターンは比例している。リスクが低くてリターンが高いということはありません


第5章

年金の不安をかしこく解決


5.1 文句ばかり？


 バーム君、公的年金の話もわかった。投資型年金の話もわかった。でも、私たちって文句をいっているだけじゃない？


公的年金はダメです。投資型年金もダメですって


 そうだね、少しまとめないで、ちえるちゃんがいっているように文句いっているだけの人になっちゃうね


じゃあ、ちえるちゃん今まで話して考えてきたことをまとめてみようか？


 まず、国民年金や厚生年金。これは、「社会構造リスク」があったんだよね

 そう、国全体が少子高齢化になって保険料が少なくなってしまうから、そのときには年金を減らしますっていう話だよ
これはどうしたら、いいんだろう？

 これは自助努力型年金で補うしか方法はないはずよね、国の仕組みが変わらない限りは

 残念ながらそうだよね。民間の年金保険が、金利が低いにもかかわらず人気があるのは、みんなそのことを知っているからなんだよね

 それから、バーム君、公民年金や厚生年金はこれからほとんど増えそうにないのでしょ？

 そのことも話したよね。平成 16 年の年金改正で、年金額は、実質的に、ほとんど増えない仕組みになってしまった。だから、インフレのことを考えると実質的な受取分は少なくなってしまう。

第 5. 年金の不安をかしこく解決

実際、厚生労働省が提出した計画では、平均的な世帯で現役世代の収入に対する年金の割合（所得代替率）が現在は 60% 程度だけど、2025 年にはだいたい 50% 程度になると考えている



じゃあ、今の世代より私たちが年金を受け取るころには、もらえる年金の額が実質的に少なくなっているわけでしょ
それでも、バーム君は、国民年金や厚生年金なんてなくなってしまえばいいとはいわないね



確かに、平成 16 年の改正でかなり後退したけど、終身を基本にした年金が確立されているのはやはりありがたいことだと思う。たとえ、年金額が実質的に減ったとしても維持されるべきだろうね



そういえば、終身年金についても話をしたよね



平均的に後どのくらい長く生きられるかっていう指標である平均余命が、毎年、男女ともにどんどん長くなってきていることを説明したよね



だから私みたいに若い女性はとても長生きすることができるのよね



男性より女性のほうが年金に敏感なのはその辺があるんだね、きっと。長生きするためのリスクをより身近に感じている



そう考えると、自助努力型の年金で、一生涯年金を受け取ることができるタイプの年金が一番私には必要だと思うわ



(ちえるちゃんの選択は！)

公的年金が必要だってことはわかりました。でも、年金の額が少しずつ引き下げられていることもわかりました
だから、わたしは自助努力型の年金保険に自分で入っておこうと思っています。少子高齢化が進んでも、また、思っていた以上に長生きしても心配ないように、自分専用の年金を準備しておこうと思います

5.2 401k 年金の教訓



「案外、公的年金っていいな」って思ったのは、401k 年金の話の聞いたときかな



401 k 年金、確定拠出年金、も公的年金の一つなんだけどね。この年金の登場で、年金に対する考え方が変わった人、多いと思うよ



それは、自分でやらされること、つまり、自己責任の部分が多くなったということ？



自己責任の原則を思い知らされたというより、年金の根幹を知らされたというべきだと思う



バーム君に説明してもらった、「計画 (Plan) → 実行 (Do) → 見直し (See)」の話ね

私も、学校で教えてもらった覚えがあるけど、マーケティングの話だとばかり思っていた



国民年金や厚生年金は計画や見直しの部分を国がやってくれているけど、401k 年金ではこれを自分でしなければならなくなった。これが多くの人にとって目に見えないストレスになっているんだね



でも、バーム君、自助努力型の年金に自分で入ってことは、結局、同じことにならない？

自分で計画 (Plan) と見直し (See) をしなければならんってこと



そのとおり。ここでも状態は悪化したんだよね

昔は、保険会社が年金保険を提供してくれていた。加入するときから一生涯年金が受取れるタイプの年金を選択することができ、そして、その年金額も決まっていた

だから、そういった保険に入るとき、一度だけ意思決定をすれば自助努力型年金の問題は解決していたんだよ。余程のことがなければ、見直す（See）必要もなかった



そうか。今では、最初から生涯受取れる終身タイプの年金を選択できる会社が減ってしまったって説明していたよね、バーム君



そう、401k 年金と普通の年金保険の話はほとんど同じことになっているんだ



私はどうしたらいいの？



これは少し難しい問題だね。基本的には解決先は2つある
一つは、ちえるちゃん自身が自分の将来のことを計画したり、見直したりすることができる技術を身につけること
最近、「投資教育」とか「金融リテラシー」といった言葉を耳にすることがない？



聞いたことがあるわ。「金融リテラシー」って言葉わからなかったから辞書で調べたの。そうしたら、リテラシーって、「教養」とか「知識能力」という意味なのね。“金融知識”っていうのがその意味のようね



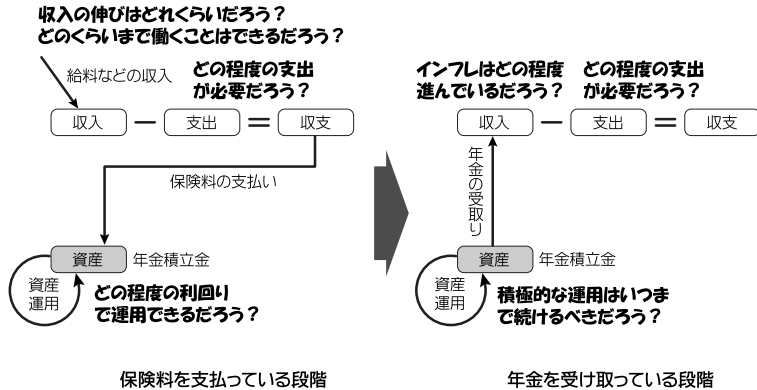
そう。その金融知識を身につけて、自分の将来をシミュレーションでできるようになることができれば、ちえるちゃんは自分で問題を解決できることになるよ

「投資教育」も同じ。投資の知識を身につけることを通じて、自分自身のことがわかるようになる

中身については、図 5.1 のような感じ。僕が、図 2.4 「ちえるちゃんの年金に対する意向チェック表」((50 ページ)) で記載してもらったことが必要でしょ

第 5. 年金の不安をかしこく解決

図 5.1 金融リテラシーの中身



結構、大掛かりな話になっているのね。もう一つの方法は？



もう一つの方法は、プロにコンサルティングをお願いすることだね



プロといっても、私がバーム君に相談できるようにプロに相談できる人って少ないと思うけど



おそらく、これから先、その部分を埋めていくのが企業であったり、労働組合であったり、あるいは、地方公共団体といった組織になると思う。



それって、どういうこと？



たとえば、ファイナンシャル・プランナー（FP）に個人が相談することは大変だと思う。FPを探るのが大変だし、そのFPが本当に能力のある人かってわからない。だから、企業や労働組合あるいは地方公共団体などが、その仲介をすればいいと思うよ



どうしてそうしたほうがいいのか？

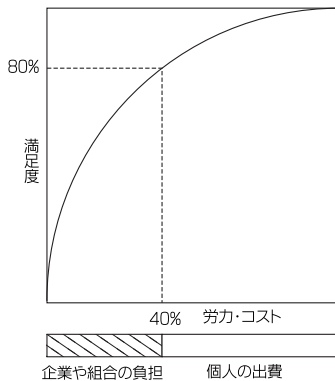


コストパフォーマンスの問題かな。ちえるちゃんだって、どうしても僕に聞きたいってことばかりじゃないでしょ。雑誌やインターネットを見ればたくさんの情報があふれているし、そういった情報であればタダで手に入れることができる

おそらく、ちえるちゃんがどうしても僕に聞きたいことは、ちえるちゃん自身のケースを具体的に聞きたいとき。だからそれ以前の段階では、企業などがセミナーを開催したり、ワークショップなどを開催すればよいと思う

80% の満足を提供して、残りの 20% は一人ひとりに任せるというのが理想かな？

図 5.2 企業、労働組合、地方公共団体の役割






(ちえるちゃんを選択は！)

年金の問題で不安を持たないようにするには、自分なりの見通しが必要だということはよくわかります


自分の収入の見通しや、あるいは、インフレがどうなっているかで、将来、必要になる年金額が変動することもわかります。でも、すべて一人で解決するには少し大変だと思います



私の場合は、バーム君に時々相談しながら、年金の見直し(See)を進めていきたいと感じています

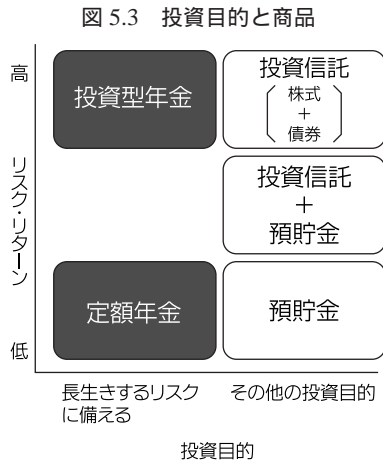
5.3 年金ポートフォリオの設計

 ちえるちゃん、話がだいぶ進んだみたいだから商品の話をしよう。

ちえるちゃんに向いている年金保険

 バーム君、ちょっと質問だけど、よくバーム君は投資信託の話しをするでしょ。投資信託じゃなくて年金保険だけを考えればいいの？

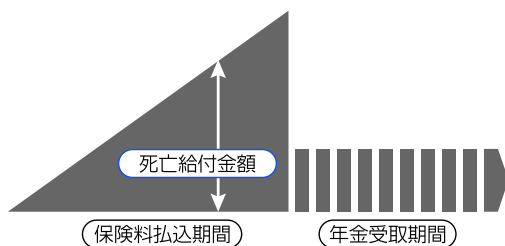
 大丈夫。もう、そこは通り過ぎている。ちえるちゃんが年金保険に入ろうと思ったのは、長生きするリスクに備えたかったからだよね。そして、その機能を持っているのは年金保険だけだった。投資信託は、生涯にわたって年金を支払ってくれる機能はない。ちえるちゃんは、 図 5.3 のように商品を位置づけていたんだよ



第 5. 年金の不安をかしこく解決

- これほどはっきりとしたものがあつたわけじゃないけど...
- そうかもしれないけど、少なくとも、「投資目的」の軸は存在していたと思うよ
- こういう形で、頭の中が整理されていると、商品で迷わなくなるよ
- バーム君、「それ以外の投資目的」では、投資信託、投資信託 + 預貯金、預貯金で隙間なく埋まっているけど、「長生きするリスクに備える」では隙間が大きいね
- じゃあ、その部分の話をするね。その前に、普通の年金保険、定額年金保険について知っておこう

図 5.4 定額年金保険の仕組み図



- 投資型年金と少し違うように思う
- 大きな差異は2つ。一つは投資型年金は一時払^{いちじばらい}といって保険料を支払うのが最初の1回だけだけど、定額年金保険は普通の保険のように月ごとあるいは年ごと保険料を支払い続けるのが主流だということ
- そして、もう一つは、年金額があらかじめ決まっているということ
- 定額年金保険は契約したときに、将来いくらもらえるのか決まっている？



正確にいうと最低の受取金額が決まっている



最低？



定額年金保険は、配当が付いているタイプの保険になっている。配当というのは、予定していたよりより多くのお金が余ったら、契約者に分配される金額のこと。配当の金額は、少ないときはゼロ、それ以外は必ずプラスでマイナスの配当というのはないから最低の年金額が決まっていることになる。



そういうことね。定額年金保険って魅力じゃない？



定額年金保険の魅力は何といっても、受取る年金額が契約のときに決まっていること、そして、うまくいけば配当によって年金額が増額される可能性があること

けれども、残念ながら、長所ばかりじゃなくて短所もある。

将来ずっと先の年金額を固定させるということは、保険会社がリスクをとっていることになるんだ。だから、予想運用利回り（予定利率）も低く抑えて、そして、より多くの人年金を受け取るように仮定してある

つまり保険料が高くなってしまっている



保険料が高いと魅力は半減ね



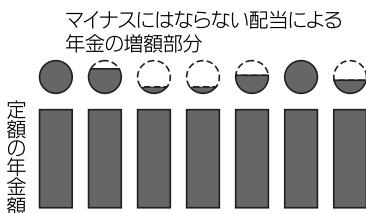
だから、定額年金保険はリスクもリターンも低かって、図 5.3 で位置づけたんだよ

最低保証の付いていないタイプの投資型年金と定額年金をイメージで書くと次のようになるね

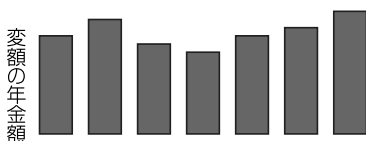
第 5. 年金の不安をかしこく解決


図 5.5 定額年金保険と投資型年金の年金のイメージ


■ 定額年金保険





■ 投資型年金
(最低保証なし)



 バーム君、私は投資型年金と定額年金保険の中間のものがいいと思うわ

 図 5.3 で抜けていた部分だね。実は、ここがとても大切なところ
ちえるちゃん、最低保証がたくさん付いた投資型年金はコストが高く
て定額年金保険に近くなってしまうということを知ったでしょ

 バーム君の計算をによれば、100 万円スタートして、10 年間で 58
万円もの差がついていたものね。あれは魅力がないと思うわ

 でも、ちえるちゃん、コストが十分安いものだったら投資型年金は魅
力があるでしょ





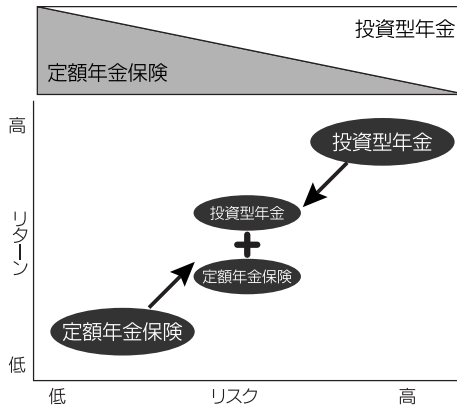

-  コストが安ければ魅力があると思う。終身タイプの年金も選べるのであればより魅力的よね
 でもコストが安いと最低保証がないのでリスクがあるのよね
 そのとおり。そこで、定額年金保険の出番なんだ。定額年金保険と変額年金保険をミックスしてしまう
 ミックスする？
 たえば、4割を定額年金保険にして、残り6割を変額年金保険にする
 こんな感じかな？

図 5.6 定額年金保険と投資型年金の年金の合成



-  ポートフォリオのリスクのコントロールのところでも話した話を年金に応用するというのが、この方法のミソだよ

第 5. 年金の不安をかしこく解決

定額年金保険は、利率は低いけどあらかじめ決められた予定利率で運用されている。うまくいけば配当も支払われて年金額が増える。この特徴は、長期的に見たときの、無リスク資産の特徴そのものなんだ。長期的に見たときの、無リスクとはインフレをヘッジしてくれる水準。実質的に価値を増やさないが、減らしもしないという水準

定額年金保険は、そういう意味で、基礎となる部分



投資型年金部分は、よい利回りを達成するため？



そのとおり、リスクはあるけど高いリターンも期待できるという特徴が投資型年金に求められる特徴だよ

できるだけ高い利回りが期待できるようにしようと考えると、最低保証がたくさん付いたものでないという結論になる。わかるよね、ちえるちゃん。コストの話

コストがかかる最低保証の部分を外してしまうことが利回りを向上させることにつながるんだ



定額年金保険はリスクがないけど、投資型年金はリスクもリターンも高いということね



そうすることが実は、一番理に^{かな}適っているんだよ。より幅広いニーズに対応することができる

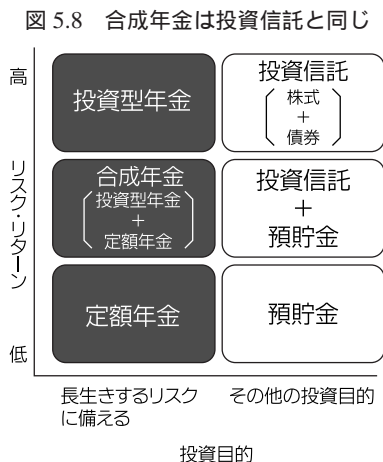
第 5. 年金の不安をかしこく解決



バーム君、合成年金があれば、ほとんどの人は合成年金の割合を考えるだけでいいんだね



ほら、図 4.3 でちえるちゃんが、「埋まっていない部分がある」って
いていたよね。ちょうどその部分を埋めたんだよ、合成年金は



ちえるちゃん、ここまでくると投資型年金、定額年金保険、投資信託
そして預貯金をどういう目的で使えばいいか整理がついたよね

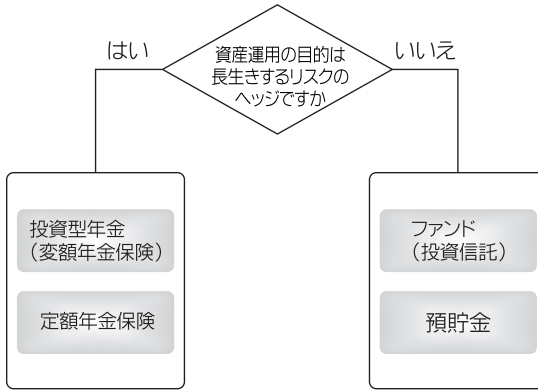


それがとてもありがたいわ。投資型年金って聞けば、いいものだと思
っていたけど違ったわね。それに、年金の話をしているとき、バ
ーム君はほとんど投資信託の話はなし
投資信託と投資型年金ってよく似ていて区別が使いにくいから、きちん
と整理してもらってよかった



ちえるちゃん、前に、一度書いたフローチャートを少し修正しておくね。資産運用の目的が決まると、ニーズにあった商品の組み合わせがわかるように

図 5.9 目的によって商品が違う





(ちえるちゃんの見聞は！)

ようやく投資型年金がわかりました。そして、定額年金保険もリスクがないよい商品であるとわかりました
バーム君が勧めるように、私の自助努力型の年金は、投資型年金と定額年金保険の組み合わせで、合成年金を作ってみたいと思います

5.4 合成年金の構成

バーム君、合成年金を作るのはいいけど、投資型年金をどの程度入れればいいのかよくわからないよ

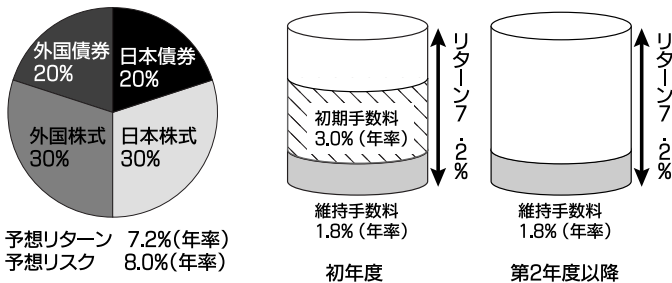
そうだね。じゃあちえるちゃん、試算してみようか？

試算するって、どうするの？

投資型年金のポートフォリオを仮定して、予想されるリスクとリターンを仮定する。それに、手数料を仮定すれば将来の積立金額がどの程度になるのか試算できるよ

今回は希望をこめて、次のような投資型年金を考えてみようか

図 5.10 仮定する投資型年金



円グラフがポートフォリオのことね

そう、国内外の株式と債券に投資するポートフォリオを考えた。平均すると年間 7.2% の利回りがあるだろうと考えている。リスクはこの利回りを変動させる要因

第 5. 年金の不安をかしこく解決

平均で 7.2% としても、ある年は 3% で、次の年は 20% となる。毎年 7.2% になるわけじゃない。この変動の幅がリスク



隣の円柱グラフは何を表しているの？



これは、実際の利回りとポートフォリオのリターンの関係。平均で 7.2% のリターンがあっても、手数料が 4.0% 必要なら、実際の利回りは 3.2% でしょ。この関係を表示している



初期手数料というのが初年度だけ必要になるもので、維持手数料が 2 年目以降も必要になるものね

バーム君、投資型年金の手数料ってこの程度だったかなあ



「希望をこめて」といったのはその部分。現在の投資型年金の手数料はもっと高い。けれども、投資信託などと比べると、この程度の水準でなければ納得感が得られないと思う



バーム君の期待でもあり、予想でもあるのね



そのとおり。30 年後の最悪^{*1}、平均、最良の場合、それぞれの平均した年間利回りを表示している

表 5.1 100 万円を投資したときの 30 年後の予想

	最悪	平均	最良
年間利回り	1.5%	5.3%	9.1%
30 年後の積立金	159 万円	490 万円	1516 万円

*1 現実が最良と最悪の場合の間に入る確率を 99% とした



30年で100万円が1500万円以上になってしまうの？



ものすごく低い確率だけどね。覚えておいて欲しいのは159万円になる可能性（確率）ものすごく低いということ
ほとんどの人が気にするのは、「ものすごく運用がうまくいかなければどうなるんだろう？」ということだから、この159万円は意味のある数字



どういうところに意味があるの？



100万円、つまり元本を割っていないというところかな。もちろん、元本を割っていないだけじゃダメだけど、一つの基準にはなる。この場合だと、30年間で100万円が159万円になる利回りを年率にすると1.5%になっているでしょ
インフレが平均して1.5%以下だと思えば、この投資型年金は魅力だよ



本当ね。どうして投資型年金の利回りがこんなによくなったの？

バーム君は、「投資型年金はコストが高いのでイメージどおりの商品じゃない」って説明しなかった？



そう。この試算の“からくり”は、年間の維持手数料を1.8%とかなり低い水準に仮定したこと

同じようなポートフォリオを持つバランス型ファンドの場合だと維持手数料の平均は、だいたい1.3%程度だと思うから、それより0.5%高くしてあるけど、現在の投資型年金よりかなり安い水準にしてある



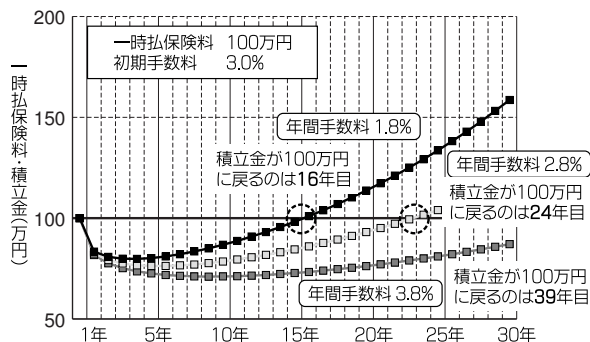
そういう“からくり”があったのね

第 5. 年金の不安をかしこく解決



ちえるちゃん、維持手数料を変化させると、運用成果が最悪の場合、何年後に積立金額が 100 万円に戻るか計算するとこうなるよ

図 5.11 維持手数料は運用成果に大きな影響を及ぼす



維持手数料、バーム君が仮定した 1.8% から 1%、2% と増えると大きな影響があるのね

バーム君が手数料の話をしている意味がよくわかる。私も投資型年金を選ぶときはできるだけ手数料低いものを選べばいいのね



そうじゃない。手数料だけ見てしまうとほかのものが見えなくなるから、まず、不必要な保証のないものを選ぶ。保証をつけたければ定額年金保険を選べばいい

投資型年金への割合を決めるのであれば、まず、最悪の場合どうなるのかを考えてみよう。先ほどの試算では、最悪の場合、1.5% の利回りになるっていう結果だったけど、ちえるちゃんどう思う？



バーム君、これが 30 年でなければどうなるの？



10 年だと-1.4%。つまり、積立金は 100 万円まで回復していないからマイナスの利回りになる。20 年だと 0.6%。ようやくプラスになる



30 年運用しなければ利回りは 1.5% にならないのね



そう、よくファイナンシャルプランナーなどが「長期投資をしよう」といっているのはこのことを指している



そうか。30 年間投資を継続するのであれば、100% 投資型年金でもいいわ

でも、少しだけ定額年金保険も入れて、投資型年金 80%、定額年金保険 20% というのはどうかしら？



いいと思うよ。それで数年経ってからもう一度考えて見れば、なおいいと思うよ



それって、「見直し (See)」のことね



そのとおりだよ。ただし、投資型年金のポートフォリオは保険会社がきっちりと管理してくれているはずだから、ちえるちゃんが見直すのは、定額年金保険と投資型年金の比率だけでいいはず
それだと楽でしょ



それはすごく楽。というより、その程度でなければ私できないと思う



だから、国内外の株式と債券に投資するポートフォリオの管理は保険会社に任せてしまう。保険会社はそれに対して手数料を取っている
何に対して手数料が取られているのか、そのことを意識しておけばいいと思うよ



(ちえるちゃんの見直しは！)

ちえるちゃんは、バーム君が計算してくれた投資型年金なら、100% 投資型年金でもよいと思いましたが、定額年金保険も 20% だけ含めることにしました

そして、数年経ってからもう一度年金を見直そうと思いましたが、でも、年金の見直しは難しいものではありません。なぜなら、投資型年金と定額年金保険の比率を変えるだけで見直しは完了してしまうからです

5.5 これから投資型年金に入ろうと思うと



ちえるちゃん、投資型年金を 80% にするって決めたけど、残念ながら無理かもしれないんだ



それはどうして？ バーム君のいっていたようなコストの安いものがないの？



それもあるかもしれないけど、もっと重大なことは、今までの投資型年金はかなり年配の方向けに作られていた商品だったということ

ちえるちゃん、今までの投資型年金って一時払保険料があって、それが年金に分割されるというイメージだったでしょ。でも、一時払保険料が相当の金額にならないと年金は思ったほどにならないというのは直感でわかるよね



それはわかるわ



だから、もし、ちえるちゃんたちが、投資型年金で老後のための年金を準備しようと思うなら、一時払ではなく分割払の投資型年金が必要になる



バーム君、分割払ってどういう投資型年金？



分割払っていうけど、何を分割で払っているかといえば、保険料のことなんだ。普通の保険だと、毎月、銀行の口座から引き落とししたりして払っているでしょ。あの方法を、分割払っていうんだよ

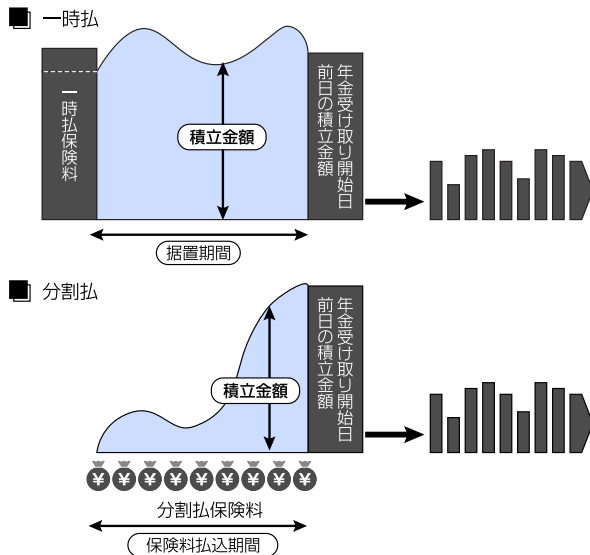







一時払保険料が準備できない私たちは、分割払の投資型年金が必要なのね

それがないの？

第 5. 年金の不安をかしこく解決

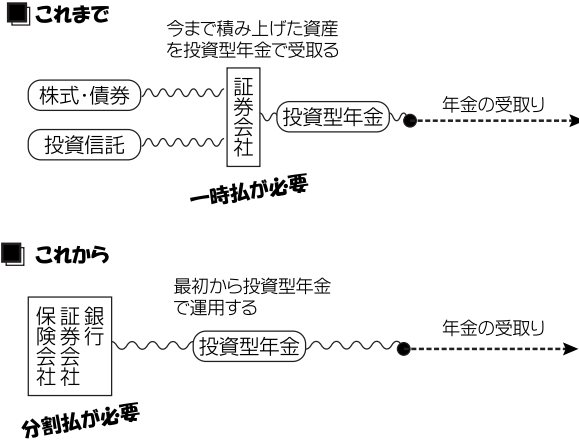
図 5.12 一時払と分割払の違い



-  今まで、主力チャネルになっていた証券会社で売ってもらえる商品ということで、一時払が主流になってしまっていた
-  でも私たちには、分割払のほうが向いているのね
-  これまで投資型年金を購入してきた人たちが特別だったわけじゃない。ただ、それまで投資型年金がなかったので投資信託や株式や債券などで運用してきた。だから一時払保険料を持っていたんだよね
-  私たちは最初から投資型年金ってこともあるので分割払が必要ということね
-  そうなんだ

5.5. これから投資型年金に入ろうと思うと

図 5.13 これから必要になる分割払



バーム君、定額年金保険は？

定額年金保険は分割払が主流になっているから安心していいよ。かつては、年金といえば定額年金保険を指していたので種類も豊富にそろっている

共済なども終身年金は充実しているよ

じゃあ、私は定額年金保険に入っておけばいいの？

そうだね。「予定利率が低い」って満足しない声も聞くけど、配当の意味を考えると予定利率が低いことが悪ではないんだよね
問題は、保険会社が、実際にどれだけの運用利回りを挙げてくれるか？、そして、そのうちどれだけを配当として分配するのか？ということ

ちえるちゃん、そういう意味で信用のできる保険会社を選んだほうがいいよ

第 5. 年金の不安をかしこく解決



自分の信頼できる保険会社で定額年金保険に入って、それで、投資型年金ね



投資型年金は、手数料に割安感があって、保険料の支払いが方法が分割払のものがなければ、代替案を考えよう



投資信託や株式に投資するの？



そう。投資信託なら、すでに手数料に割安感のあるバランス型ファンドがある

バランス型ファンドであれば、運用の中身は、投資型年金とほとんど同じ。そういったバランス型ファンドで着実に資産形成をしておいて、一時払の投資型年金に切り替える。それが代替案だね



分割払の投資型年金でいいものはできないのかなあ？



そんなことはないと思うよ。すでにお金を持っている世代を中心に投資型年金はたくさん販売されているので、販売の裾野を広げようとするより若い世代の人たちに販売しようとするはず。だから、分割払は必ず必要になる



どれくらい先なのかな？



近い将来に投資型年金の主流は、一時払から分割払にシフトすると思うよ



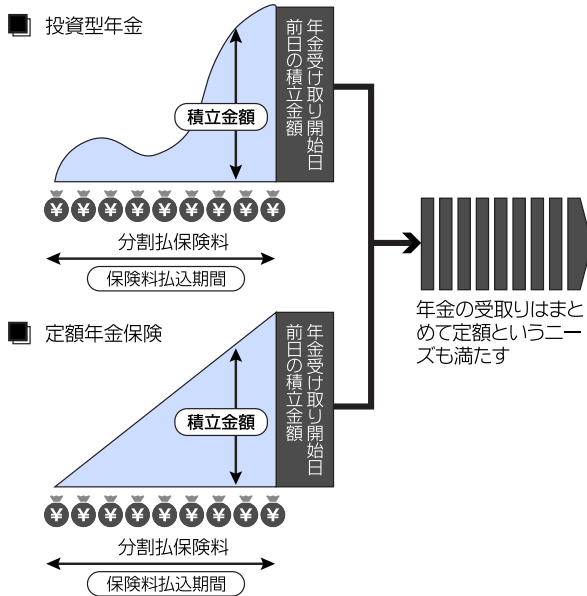
投資型年金も定額年金保険も分割払であることが理想的なのよね



コツコツと積立てるイメージだよ。合成年金のイメージをもう一度確認してみようか

5.5. これから投資型年金に入ろうと思うと

図 5.14 投資型年金と定額年金保険による合成年金



バーム君、じゃあ、見直しのイメージはどんな感じになるの？



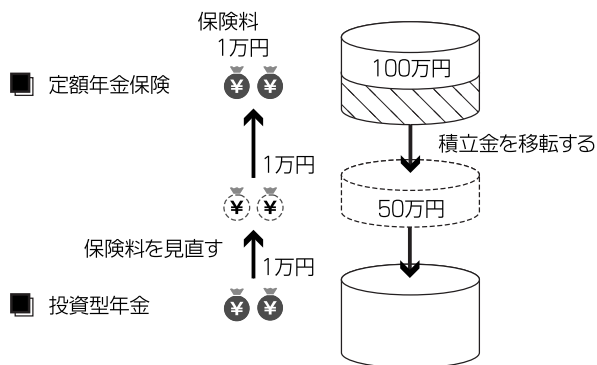
見直しは2つの方法でできるんだよ

一つは支払う保険料の割合を変えること。定額年金保険に1万円、投資型年金に2万円と合計で3万円の保険料を払っていたとしよう。投資型年金は定額年金の2倍のウェイトをかけている状態だね。投資型年金の保険料を今後は1万円に減らす代わりに、定額年金保険の保険料を2万円に増やすと、徐々にウェイトが変わるよね。これが一つ目の見直しの方法

第 5. 年金の不安をかしこく解決

もう一つは、積立金を移管するイメージ。100万円ある定額年金保険の積立金の半分を、投資型年金の積立金に移管してしまう。この方法だと今まで積立てた部分も、すべてまとめてウェイトを変更することができる

図 5.15 年金の見直しは2つの方法で行う



バーム君、これはカンタンでいいね



ごめんね、ちえるちゃん。これも近い将来の課題なんだ

僕は、消費者にとって本当にニーズのあるものは、きっと実現すると
思っているけどね



(ちえるちゃんを選択は！)

ちえるちゃんは、定額年金保険については、保険会社を選んで加入しようと思っています。そして、投資型年金はバーム君の意見を参考にしながら、保証のあまりついていないコストの安い投資型年金を選ぶことにしました
もし、そういった投資型年金が見つけれなければ、バランス型ファンドを購入しようと考えています

5.6 ちえるちゃんの感想



バーム君、年金の話って全部つながっていたね

最初は社会保険庁の職員が問題だって話していたけど、結局、自分の話になっていたね



ちえるちゃんが考えたことは、実は、僕たち一人ひとりが考えないといけないことだよ



本当にそう思うわ。単に、公務員の人が悪いことをしましたというだけじゃないものね。自分で考えることが大切なよね！



特に、「計画 (Plan) → 実行 (Do) → 見直し (See)」は初めて考えたよね



そう。自分で考えないと「計画 (Plan)」できないのよね。実は、私の悩みはこれだって気付かせてもらった



401k 年金っていう年金が登場して、「自己責任の時代です」と宣言されてしまうと、自分で「計画 (Plan)」できない人はどんどん取り残されてしまう。誰に聞いてもわからないから、フラストレーションが溜まるという構図だよ。これはしゃかい全体で取り組むべき問題だよ



今回私が考えたことは、だから、401k の外の話ね



そう、401k を含めた公的年金の部分は、もう政治の問題だからね。日本の経済とリンクした政治の問題。それはそれで解決してもらわなくちゃね

でも、時間はどんどん過ぎていくから、ちえるちゃんは不安を感じていた



そうよね。それで、少なくとも自分の周りのことぐらいは自分で考えようということで、自助努力型年金について考えた
私は、バーム君が投資型年金のこと全然評価していないんじゃないかって思っていたの。だって、バーム君、講演とかで投資型年金のことよく批判するでしょ



別に批判しているわけじゃないよ。「金融商品というものは、時代とともにニーズが移り変わっていくものだから、そうしないと時代遅れになってしまうよ」と指摘しているだけ



でも、今回じっくりと説明してもらったおかげで、投資型年金のどの部分がよくないのかははっきりとわかったわ



ちえるちゃんにそういってもらえると嬉しいね
実は、こういった説明はとても難しいんだよ。説明をしたところでどれだけの人に解ってもらえるかわからない。無駄な努力に終わるかもしれない
「解ってもらえないならはじめから説明しなければいい」そう考えるときもあるよね



でも、きっとそういう努力は必要だと思うわ
社会保険庁の問題だってそういった努力が忘れ去られていたから起こったわけでしょ。サービスを提供する側がサービスを受ける側の気持ちを忘れたから問題がどんどんと拡大した

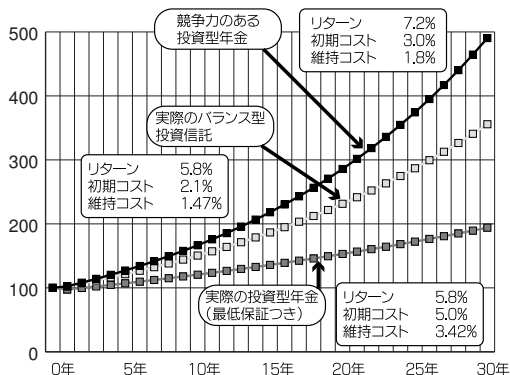
第 5. 年金の不安をかしく解決



そのとおりだね、ちえるちゃん

投資型年金は、その名前のイメージと違って、投資とはあまり関係のない商品になってしまっている。もう一度、5.4「合成年金の構成」で仮定した投資型年金と、4.10「最低保証のからくり」のところで参考にした実際の投資型年金、さらに、その投資型年金とほぼ同じ運用をしていると推定される投資信託について比較してみよう

図 5.16 予想される運用成果の比較



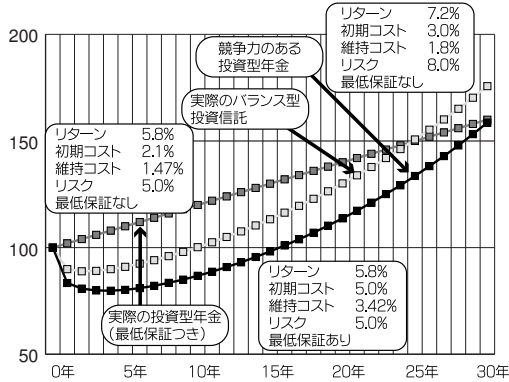
投資型年金は、かなり、運用成績が低くて予想されるのね。コストがかかっているからね

でも、コストがかかっているということは、最低保証がついているわけなので、運用の成績が悪かったときは助かるのね



その試算結果を見てみよう

図 5.17 最悪の場合の比較



ちえるちゃんのいったとおりになっているね！

最悪の場合を考えたときには最良の選択になっているというのが、最低保証がたくさんついた投資型年金の本当の特徴だね

でも、かつてはこのタイプの投資型年金は時代のニーズに合ったものだったんだよ



どうして？



つまり、少子高齢化とグローバル化の波が同時に日本に押し寄せてきた。それで社会構造が変化したことは公的年金のところでも説明したよね。でも、僕たちはそのことがとても不安だったわけ

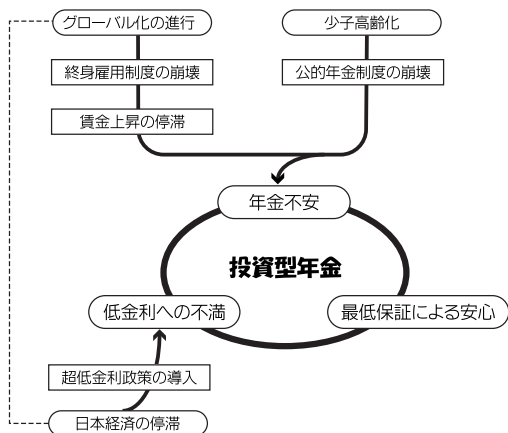
一方で、これはグローバル化と関係があるけど、日本の経済はバブル崩壊から立ち直れなくて、超低金利政策が続いていたでしょ。じっくり考えれば、デフレだったので超低金利自体が悪かったわけじゃないけど、欲求不満の状態にあったことは確か

「どうして金利はこんなに低いの？」って

第 5. 年金の不安をかしこく解決

最低保証がついた投資型年金はそういう時代の波にすっぽりと収まったんだね

図 5.18 かつてはニーズを満たしていた投資型年金

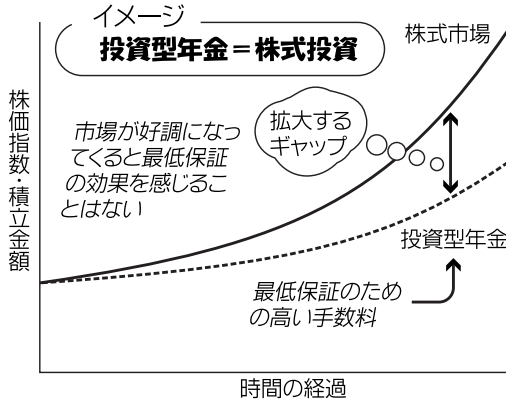


バーム君の説明だと、かつては良かったけど、今はダメになったということになるわね



そう。最低保証がついた投資型年金は、デフレという極めて稀な経済状態の中で機能した商品だったんだ。僕は「デフレ対応型商品」って呼んでいるけど、このデフレ対応型商品は、インフレ、つまり資本主義社会においてはごく当たり前の経済状態になると輝くを失うんだから時代の流れとともに商品も変わらないと時代に取り残されてしまう

図 5.19 市場が好調になるとイメージと現実のギャップが顕在化する



じゃあ、これから必要になる商品は？



デフレ対応型でなければ、「インフレ対応型商品」というわけ。今回、ちえるちゃんに紹介したような、シンプルな形で最低保証がついてなく、できるだけコストを抑えた商品、これが「インフレ対応型商品」に該当する



デフレのときはどうすればいいの？



デフレのときは定額年金保険。なぜなら、最低保証がついた投資型年金と同じだから



じゃあ、合成年金というのは、デフレ対応型商品とインフレ対応型商品でできているわけね



そう。だからその配分を変えてやることは、経済の変動にも対応できる仕組みになっている

第 5. 年金の不安をかしこく解決


住宅ローンを借りるとき、金利が上がると思ったときは確定利率で、金利が下がると思ったときは変動利率で借りたほうがいいといわれるけど、今回の話はその年金版になっている



バーム君、とてもよくわかったような気がするわ、ありがとう

あとがき



最後まで読んでいただきありがとうございます。どうでしたか？ あなた



ちえるちゃん
 は似ていましたか？

似ていました、そう、それは良かった。

資産運用が身近なものに感じましたか？

資産運用あるいは投資というものに見えない障害があるとすれば、おそらく、それは最初の一步のところですよ。あとは、スポンジに水がしみこむように、資産運用に慣れてしまいます。そうなった後、ふり返ってみれば、この本が、「最初に私の背中を押してくれた」と感じていただけるなら非常に幸せです。そういう目的でこの本を執筆しようと考えました。

ちえるちゃん
 は実在するかって？ それは、あなた自身に伺います。この本を読んで、「うん、そのとおり」と感じていただけましたか？ その応えが「はい」なら、ちえるちゃん
 はあなた自身です。

バーム君
 は実在するかって？ 実在します。それは私自身です。でも、バーム君
 は少し後悔しています。伝えたかったことを全部伝え切れなかったように感じているからです。言葉にするだけで自分が思っていることの半分も伝えられていないように思います。まして、文章にすると、10分の1も伝えられていないように思います。わかりにくい、あるいは、不十分な説明があったかもしれないことを、最後にお詫び申し上げます。

2008年2月 杉山明